

(参考資料：本時の指導案)

(1) 目標

- ・ 身の回りのいろいろな水溶液の性質を調べ、分かった事をまとめることができる。
- ・ 水溶液の取り扱いの注意について、意識することができる。

(2) 本時の学習指導過程

過程	学習活動	児童の意識の流れ	教師の支援活動
つかむ ／ 確かめる ／ まとめる	1 学習課題をつかむ	身の回りの水溶液の性質を調べよう。	・ 水溶液の性質の調べ方についてどんな方法があるか確認する。
	2 水溶液の性質について調べる。	酸性、アルカリ性、中性について確かめよう。	・ 水溶液は、必ずうすめたものを用いることを確認する。(10倍希釈)
	3 結果をノートにまとめる。	指示薬の色の変化を確認しよう。塩酸と水とアンモニア水で試してみよう。 ・ 酸性 (HCl) ⇒ 赤 ・ 中性 ⇒ 紫 ・ アルカリ性 (NH₃) ⇒ 青緑、緑 酸性 トイレ洗浄剤、酢、炭酸水、スポーツ飲料 アルカリ性 カビキラー、キッチンハイター	・ 五感の中でもどの液にも使えるのは「見た目」と「におい」であることを確認する。 ・ 安全面に配慮し、実験上の注意を提示し確認する。 ・ <u>児童一人一人がノートを活用し結果を記述させる。</u> ・ 実験の反応をグループ全員が見られるように協力しながら一つの実験を進めるようにする。
	4 水溶液のラベルを見て注意することを考える。	身の回りの水溶液も酸性、中性、アルカリ性の3つの仲間に分けられることがわかった。	〈評〉 <u>本時で分かった事を一人一人がノートに記入し、交流することができたか。</u>
	5 本時の学習で分かった事をまとめ、交流する。	身の回りの水溶液が原因で発生した事故があるのだな。 水溶液のラベルにはどんな情報がのっているのだろう。 ・ 身の回りには取り扱いに注意しなければならない水溶液があるのだな。 ・ ラベルや取扱説明書をよく読んで使用することが大切なのだな。 ・ 理科は生活に結びついているのだな。	・ 水溶液が原因で起こった事故について教師が伝え、取り扱いの注意について気がつくようにする。 ・ 全体で考えを交流し、わかったことを黒板に表示する。

(3) 評価

- ・ 身の回りにある水溶液の液性を、指示薬を使って調べ結果をまとめることができる。
- ・ 水溶液の取り扱いについて、生活上の注意点を意識することができる。